ANNUAL REPORT 2022

年次報告書

公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ご あ い さ つ

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長
御手洗　冨士夫

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため1991年11月1日に設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

令和４（2022）年度は、当協会の主要事業である「コスモス国際賞」の2022年（第29回）受賞者に米国バード大学教授のフェリシア・キーシング博士を選出いたしました。キーシング博士は、生物多様性と人獣共通感染症病原体の伝播リスクとの関係を、実践的な調査研究により解明され、生物多様性の高い生態系はさまざまな病原体の温床となりえますが、総体としては感染症のリスクを下げうる希釈効果が存在することを示し、生物多様性が人間の社会にとって価値あるものであることを明らかにされました。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、来日が叶いませんでした2021年（第28回）受賞者であるピーター・ベルウッド博士もお招きすることができました。

助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業におきましても、オンライン講演会や共催フォーラムなどを通し、多くの方にご視聴・ご参加いただくなど、有意義な成果を挙げることができました。

令和５（2023）年度は、コスモス国際賞が30回の節目を迎えることから、記念事業をはじめ、ポストコロナにおける理念の継承、発展に向け、各事業をさらに充実、推進してまいる所存でございますので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

本書は、令和４（2022）年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いに存じます。

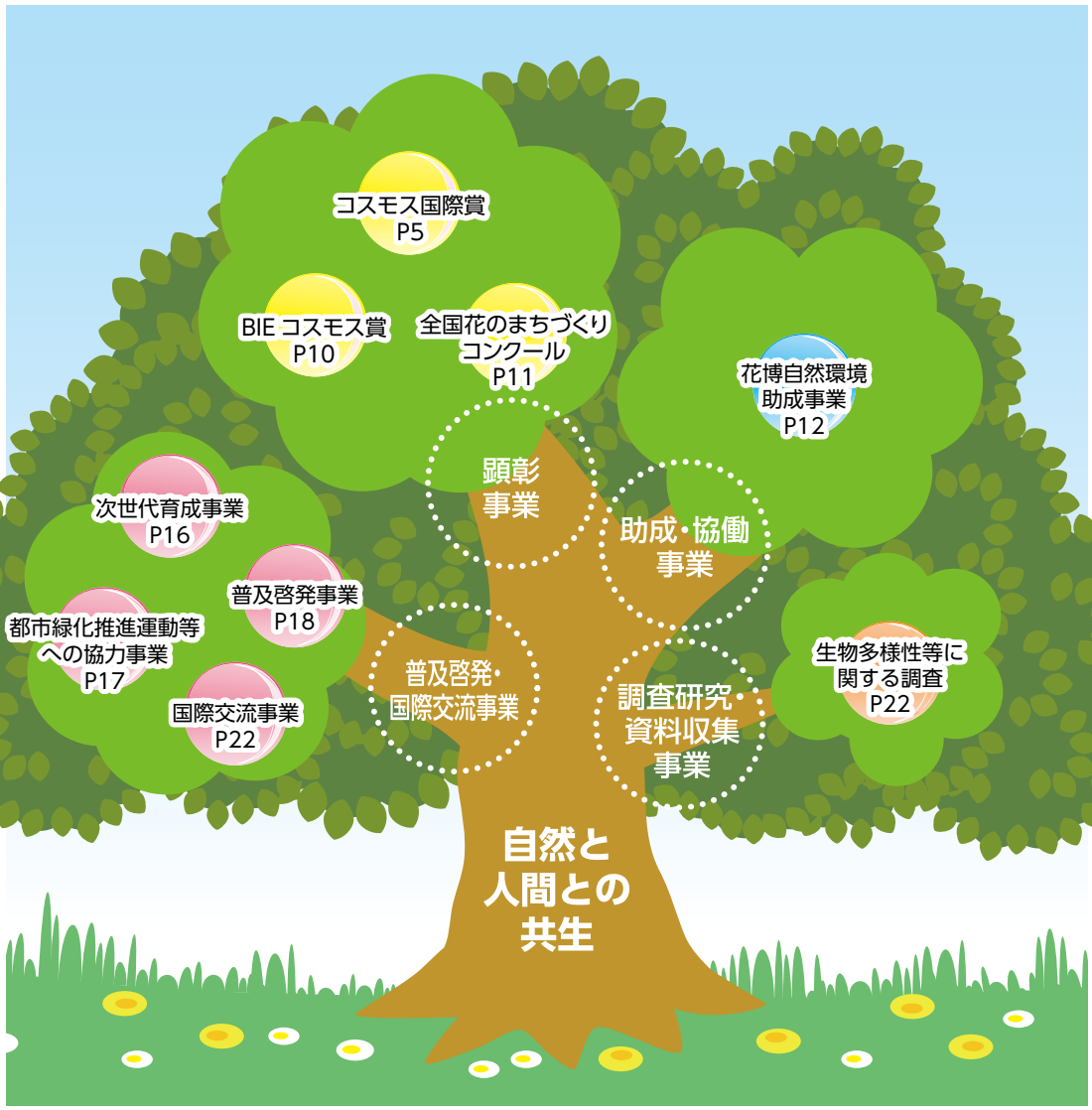
天皇皇后両陛下ご接見

2022年コスモス国際賞受賞者キーシング博士、2021年コスモス国際賞受賞者ベルウッド博士ご夫妻は、
天皇皇后両陛下とお会いになった。

（令和4年11月16日　御所にて）

事業概要

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐろうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であると考える。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

1. コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」（以下「コスモス賞」という。）の2022年（第29回）受賞者の選考を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等

コスモス賞委員会（以下「賞委員会」という。）及びコスモス賞選考専門委員会（以下「選考委員会」という。）を設置し、次の選考作業を行いました。

＜2022年（第29回）受賞者の選考・決定等＞
・第1回、第2回選考委員会（令和4年5月9日、5月２４日）
・第3回選考委員会（令和4年6月27日）
・第2回賞委員会（令和4年6月27日）
　2022年受賞候補者にフェリシア・キーシング博士（バード大学教授）が選定されました。
・第114回理事会（令和4年7月20日）
　賞委員長より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。
　また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表等を実施しました。

2022年（第29回）コスモス賞受賞者
フェリシア・キーシング博士
（バード大学教授）
自然生態系の生物多様性と、人獣共通感染症病原体が人間社会へ伝播するリスクとの関係性を、実践的な調査研究によって明らかにし、ポストコロナ時代における自然と人間の共生のあり方に科学的な示唆を与えた。

＜2023年（第30回）受賞者の選考等＞
・第1回賞委員会（令和5年1月17日）

2022年（第29回）コスモス国際賞授賞式の開催

オンライン及び国内外からの賓客及び招待者約350名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

日　時：令和4年11月9日（水）午後３～５時
場　所：住友生命いずみホール（大阪市中央区）
出席者：約350名（オンライン参加含む）
次　第：主催者紹介
　来賓紹介（2016年コスモス国際賞受賞者岩槻邦男博士、2021年コスモス国際賞受賞者ピーター・ベルウッド博士、ジェームズ・ハサウェイ在大阪・神戸米国総領事館政治経済担当領事、五十嵐康之国土交通省大臣官房審議官、田中清剛大阪府副知事、橋本広志大阪市建設局理事）
　主催者挨拶
　授賞理由及び受賞者の紹介
　受賞者入場
　賞状、賞金目録、メダル贈呈
　来賓祝辞（岸田文雄内閣総理大臣）
　受賞者挨拶
　祝賀演奏

顕彰事業

2022年 コスモス国際賞 受賞記念講演会

コスモス国際賞の関連行事として、2022年受賞者フェリシア・キーシング博士による講演会を開催しました。白山義久博士による受賞者紹介の後、キーシング博士が講演を行い、その後、岡部貴美子博士の話題提供、キーシング博士と岡部博士の対談および聴講者からの質問への応答が佐倉統博士の進行により行われました。

日時：令和4年11月13日(日)午後1時30分～午後3時30分
場所：東京大学大講堂(東京都文京区)、オンライン(Zoomウェビナー)
参加者数：現地参加約200名、オンライン参加約450名
内容(敬称略)：
・受賞者紹介
　白山義久(コスモス国際賞選考専門委員会委員長、京都大学名誉教授)
・受賞記念講演「生物多様性の損失と感染症」
　フェリシア・キーシング
・話題提供
　岡部貴美子(国立研究開発法人森林研究･整備機構 森林総合研究所生物多様性･気候変動研究拠点研究専門員)
・対談、質疑応答
　フェリシア・キーシング
　岡部貴美子
　コーディネーター：佐倉統(コスモス国際賞選考専門委員会委員、東京大学大学院情報学環教授)
共催：東京都教育委員会
後援：文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、アメリカ大使館、日本生態学会、日本獣医学会、日本細菌学会、日本ワンヘルスサイエンス学会

コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年（第1回） 平成5年
ギリアン・プランス 卿
Sir. Ghillean Prance

英国・王立キュー植物園園長
南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

1994年（第2回） 平成6年
ジャック・フランソワ・バロー
（物故）
Dr. Jacques Francois Barrau
（Deceased）

仏国・パリ国立自然史博物館教授
太平洋の島々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年（第3回） 平成7年
吉良龍夫
（物故）
Dr. Tatuo Kira
（Deceased）

日本・大阪市立大学名誉教授
光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年（第4回） 平成8年
ジョージ・ビールズ・シャラー
Dr. George Beals Schaller

米国・野生生物保護協会科学部長
40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ:生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年（第5回） 平成9年
リチャード・ドーキンス
Dr. Richard Dawkins

英国・オックスフォード大学教授
1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して学界に論争を起こしている。

1998年（第6回） 平成10年
ジャレド・メイスン・ダイアモンド
Dr. Jared Mason Diamond

米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授
医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年（第7回） 平成11年
呉 征鎰（ウー・チェン・イー）
（物故）
Dr. Wu Zheng-Yi
（Deceased）

中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長
中国を代表する植物学者。中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行を実現させた。

2000年（第8回） 平成12年
デービッド・アッテンボロー卿
Sir David Attenborough

英国・映像プロデューサー
野生生物のドキュメント映像のパイオニア。BBC時代から退社後を含め、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年（第9回） 平成13年
アン・ウィストン・スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn

米国・マサチューセッツ工科大学教授
都市と自然は対立するものでなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であるとし、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年（第10回） 平成14年
チャールズ・ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station

エクアドル
1964年設立の生物学研究所。南米エクアドル領のガラパゴス諸島で、ゾウガメ、イグアナなど、特異な固有生物の調査研究と保護に当たっている。

2003年（第11回） 平成15年
ピーター・ハミルトン・レーブン
Dr. Peter Hamilton Raven

米国・ミズーリ植物園園長
米国を代表する植物学者で、地球の生物多様性の保全を提唱した国際的な先駆者。常に地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年（第12回） 平成16年
フーリャ・カラビアス・リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo

メキシコ・メキシコ国立自治大学教授
途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年（第13回） 平成17年
ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Pauly

カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を収めた。

2006年（第14回） 平成18年
ラマン・スクマール
Dr. Raman Sukumar

インド・インド科学研究所生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年（第15回） 平成19年
ジョージナ・メアリー・メイス
（物故）
Dr. Georgina Mary Mace
（Deceased）

英国・ロンドン大学自然環境調査会議個体群生物学研究センター所長兼教授
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取組みを行なった。

2008年（第16回） 平成20年
ファン・グェン・ホン
Dr. Phan Nguyen Hong

ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009（第17回） 平成21年
グレッチェン・カーラ・デイリー
Dr. Gretchen Cara Daily

米国・スタンフォード大学教授
生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年（第18回） 平成22年
エステラ・ベルゲレ・レオポルド
Dr. Estella Bergere Leopold Ⅱ

米国・ワシントン大学生物学部名誉教授
花粉学者であり自然保護論者として博士の父アルド・レオポルド氏（1887-1948）が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年（第19回） 平成23年
海洋生物センサス科学推進委員会
The Scientific Steering Committee of the Census of Marine Life

海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年（第20回） 平成24年
エドワード・オズボーン・ウィルソン
（物故）
Dr. Edward Osborne Wilson
（Deceased）

米国・ハーバード大学名誉教授
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めた。

2013年(第21回)　平成25年
ロバート・トリート・ペイン
(物故)
Dr. Robert Treat Paine
(Deceased)

米国・ワシントン大学名誉教授
生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、キーストーン種という概念を提唱したことにより、生態学はもとより保全生物学や、一般の人々の生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

2014年(第22回)　平成26年
フィリップ・デスコラ
Dr. Philippe Descola

仏国・コレージュ・ド・フランス教授
南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とそこの自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

2015年(第23回)　平成27年
ヨハン・ロックストローム
Dr. Johan Rockström

スウェーデン・ストックホルム・レジリエンス・センター所長
人類が地球システムに与えている圧力が飽和状態に達した時に不可逆的で大きな変化が起こりうるとし、プラネタリーバウンダリーを把握することで、壊滅的な変化を回避でき、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるという考え方を示した。

2016年(第24回)　平成28年
岩槻 邦男
Dr. Kunio Iwatsuki

日本・東京大学名誉教授 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長
地球に存在する多様な生物の相互関係を統合的に解明する研究手法の構築により、シダ類をはじめとする植物系統分類学を発展させ、さらにアジアを中心とする生物多様性の保全に多大な貢献を果たした。

2017年(第25回)　平成29年
ジェーン・グドール
Dr. Jane Goodall

英国・ジェーン・グドール・インスティテュート創設者
野生チンパンジーの研究を長年続け、その全体像を明らかにするとともに、チンパンジーの住む森を保全するための植林活動や環境教育活動を行った他、世界の多くの国で実践されている環境教育プログラム「ルーツアンドシューツ」を創案した。

2018年(第26回)　平成30年
オギュスタン・ベルク
Dr. Augustin Berque

仏国・フランス国立社会科学高等研究院教授
和辻哲郎の著作「風土」から大きな影響を受け、風土概念をさらに拡充、深化、発展させ、「風土学(mésologie)」と名づけられる新たな学問領域を切り拓き、自然にも主体性があるという「自然の主体性論」を提唱した。

2019年(第27回)　令和元年
スチュアート・L・ピム
Dr. Stuart L. Pimm

米国・デューク大学教授
生物の食物網の複雑さや種の絶滅速度等について、数理モデルにより理論的に明らかにすると共に、NGOを立ち上げ、生物保全活動を支援するなど、生態系や生物多様性の保全に対して科学と実践の両面において多大な功績を果たした。

2021年(第28回)　令和3年
ピーター・ベルウッド
Dr. Peter Bellwood

英国および豪・オーストラリア国立大学名誉教授
オセアニアや東南アジアにおける新石器時代の暮らしを主な研究テーマに世界的な視野で農耕の拡散を研究し、考古学、言語学、人類生物学の学際的研究による「初期農耕拡散仮説」を提唱した。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響によりコスモス国際賞の実施を中止した。

顕彰事業

委員会

コスモス国際賞委員会　令和5年3月31日現在（50音順）

委員長	尾池和夫	静岡県立大学理事長
副委員長	山極壽一	総合地球環境学研究所所長
委員	秋道智彌	山梨県立富士山世界遺産センター所長
委員	浅島　誠	帝京大学特任教授
委員	池内　了	総合研究大学院大学名誉教授
委員	白山義久	京都大学名誉教授
委員	武内和彦	公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長
委員	中西友子	東京大学名誉教授
委員	西澤直子	石川県立大学学長
委員	林　良博	東京大学名誉教授
委員	鷲谷いづみ	東京大学名誉教授
委員	和田英太郎	京都大学名誉教授
顧問	岩槻邦男	東京大学名誉教授
顧問	岸本忠三	大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
顧問	中村桂子	JT生命誌研究館名誉館長

委員会

コスモス国際賞選考専門委員会　令和5年3月31日現在（50音順）

委員長	白山義久	京都大学名誉教授
副委員長	池谷和信	国立民族学博物館教授
委員	池邊このみ	千葉大学大学院園芸学研究科教授
委員	モンテ・カセム	国際教養大学理事長兼学長
委員	亀崎直樹	岡山理科大学生物地球学部教授
委員	佐倉　統	東京大学大学院情報学環教授
委員	ケビン・ショート	東京情報大学環境情報学科元教授
委員	髙村ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター教授
委員	辻　篤子	中部大学特任教授
委員	横山　潤	山形大学理学部教授

2. BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE（博覧会国際事務局：本部パリ）と当該博覧会協会と3者で「BIEコスモス賞」を実施しています。
令和4年度は、次回の授賞を予定している関西・大阪万博での実施をBIEと調整しました。

3. ノーベル財団表敬訪問

令和4年9月9日（金）、コスモス国際賞30回の節目として、ノーベル財団を表敬訪問し、今後の協力、連携を協議しました。

4. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画しました。

第32回（2022年）全国花のまちづくりコンクール

主 催 者：花のまちづくりコンクール推進協議会
（当協会、（公財）日本花の会、（公財）都市緑化機構、（一財）日本花普及センター）
入賞/応募数：27点/694点
表 彰 式：新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

農林水産大臣賞

鳥山 順子（群馬県嬬恋村）

水田 進（兵庫県洲本市）

文部科学大臣賞

牧之原市立萩間小学校（静岡県牧之原市）

国土交通大臣賞

野間大池公園花学校（福岡県福岡市）

髙島 孝子・直宏・千鶴（香川県多度津町）

第28回全国花のまちづくり姫路大会

主　　催：全国花のまちづくり姫路大会実行委員会、花のまちづくりコンクール推進協議会、姫路市
開 催 日：令和4年5月21日（土）・22日（日）
場　　所：アクリエひめじ（兵庫県姫路市）

助成・協働事業

1．花博自然環境助成事業

花の万博の基本理念「自然と人間との共生」の継承発展・普及啓発につながる調査研究や活動並びに被災地復興を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、助成事業を実施しています。
本事業は、平成16年度より一般公募助成として開始したもので、これまで330件余の団体を支援してきました。
助成対象は、花の万博の基本理念の継承発展・普及啓発につながる調査や活動で、潤いのある豊かな社会の創造に寄与するものです。

令和4年度助成事業

令和4年度は29件の事業に助成しました。

【調査研究】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要（申請時）
一般財団法人沖縄美ら島財団	沖縄の伝統的景観木の新病虫害防除に関する調査研究	沖縄県	観光産業が盛んな沖縄にとって、沖縄らしい景観の形成に重要な役目を果たす緑化木の健全な育成は重要である。本事業は、特に沖縄県内で近年問題となっている外来ヨコバイによるアカギの葉枯れや、約20年前から原因不明のフクギの黄化衰退木について調査研究を行い、伝統的文化や風土と結びついた景観の保全を目指す。
NPO法人生物多様性研究所あーすわーむ	浅間山の草原・森林における動植物モニタリング調査	長野県	浅間山では亜高山帯、偽高山帯に貴重な自然草原が存在するが、シカの採食圧や森林化、乾燥化等により、草原環境の維持が危ぶまれている。その草原の生物多様性の維持のために、生息する動植物のモニタリング調査を実施し、当該地の保全に向けての効果的な方法や対策について考察する。
NPO法人流域環境保全ネットワーク	東海地方のタナゴ亜科魚類2種の遺伝的撹乱実態の解明	三重県	東海地方のヤリタナゴとアブラボテは、環境省選定の準絶滅危惧種で地域固有の集団である。しかし、一部の水系で他地域由来の遺伝子が確認されており、遺伝的撹乱による在来集団の絶滅が懸念されている。本研究では、両種が生息する東海地方の水系を網羅的に調査し、各水系の両種の遺伝的撹乱と地域固有性の実態を解明する。
神奈川トンボ調査・保全ネットワーク	絶滅危惧トンボ類の現状把握調査	神奈川県	絶滅危惧種の現存情報は、数値に基づく判定に必須であるが、地域研究者の高齢化によって、情報収集が困難になっている。本研究では、環境省絶滅危惧Ⅰ・Ⅱ類のトンボ類の現存情報を把握することを目的とする。産地の植生や外来種などの情報も集約し、それらの結果は、環境省レッドリスト改訂のために提供する。
モンゴル森林再生促進研究会	「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発	滋賀県	降水量が少ないため、山火事後の再生が困難なモンゴル北部で、森林観察で着想を得た「倒木遮蔽更新」仮説を応用した森林再生促進技術の開発を行い、その成果を現地の人々に共有してもらうために研究調査、発表、技術研修、展示、論文化を行う。
島根県維管束植物誌編集委員会	島根県維管束植物の調査～植物誌の編纂に向けて	島根県	島根県の自然が豊かと思われるが，その豊かな実態を把握する植物誌が未だに存在しておらず，植物多様性保全のため基礎データの構築は遅れている。本事業は島根県維管束植物誌の編纂・刊行のため,研究者,地元の植物愛好家,自然保護団体と協働で植物の調査，既存の十数万点標本データの分析,データベースの構築を行う。
生命の星・地球博物館入生田菌類誌調査グループ	市民参加型調査に基づく大規模な地域菌類誌の出版	神奈川県	神奈川小田原市入生田地区では、県立生命の星・地球博物館のボランティアメンバーが中心となって、これまでに約一万点の菌類標本が採集され、同博物館に収蔵されてきた。これらの標本を基に、地域自然誌の集大成となる学術性の高い菌類誌を、博物館を拠点に一般市民（アマチュア）と専門家の協働で作成し、出版する。

【活動・行催事】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
源氏藤袴会	藤袴香る歴史・文化・伝統の町づくり「藤袴祭」	京都府	準絶滅危惧種であり京都在来種藤袴を地域内外にその魅力と共に京都の歴史·文化·伝統を伝承し藤袴の効能を研究·効用を調査。保全育成者の参加を呼掛け育成活動を推進し5月～11月まで育成作業。地域育成者の藤袴鉢を展示しこの花の香りを誘う賑わいの町を創り地域活性化を図る藤袴祭を10月第2週金～月の4日間開催。
江南の藤保存会	緑と藤棚の自然環境保全・保護プロジェクト	埼玉県	保存会は江南の藤(ノダナガフジ)を保存・継承しかつ地域に根ざしたコミュニティーづくり・環境保全・保護の促進を行う事を目的とする。熊谷市地球温暖化防止活動促進員として熊谷青年会議所と提携して藤棚の下が外気と5度～6度涼しくクールシェアー先として6月～7月末まで一般開放しております。
NPO法人ひとともりデザイン研究所	人と森を繋ぐ嵐山嵯峨野の風景づくりプロジェクト	京都府	嵯峨嵐山の森づくり活動を行う人の輪を広げ、ツツジなど四季彩の花を咲かせる景観づくりを行うため、地域の人々で森を守る仕組みづくりを行うことを事業の目的とします。
ECOKA委員会	まちなかの花とみどりでSDGｓ推進事業	奈良県	密林状態であった鹿ノ台周辺緑地の侵入竹の除伐、雑草木刈り、枝打ち、間伐、植樹などを実施中である。里山風に整備されたところへ花木の植樹、遊歩道、杉丸太階段の作設など維持管理を実施、未利用空地の花壇化と地域住民が身近な自然を楽しめる緑地空間に修景する。
NPO法人自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会	生物多様性保存型里山ビオトープの形成に関する事業	富山県	原生的な自然は少ないが、里山的自然が多く残る射水市において生物多様性・生態系の理念を啓発し、地域在来の動植物・絶滅危惧種の動植物の保存を図るとともに、過疎化の進行による里山衰退を防ぎ地域の活性化を図る。本来、射水丘陵に生息していたホクリクサンショウウオ(環境省レッドデータリストⅠ類B)等の保存を図る。
かせやまの森創造社	生きものの谷再生プロジェクト	京都府	30年近く耕作放棄されブッシュ化した棚田を草刈りや掘り起こしで再生し、ヤマトサンショウウオなどの生息のための水面(湿地)をつくる。そこで「かせやまの森学校」を開催し、米・セリ・レンコンなどの湿地の作物を市民参加で育てる。現場の竹を活用して害獣防護柵やベンチや日陰だなをつくる。
NPO法人樹木研究会こうべ	木のお医者さんが伝える「樹木の生き方」	兵庫県	樹木医は、樹木の診断と樹勢回復、樹病の予防や後継樹の保護育成などに携わる専門家である。樹木医が「樹木の生き方」に関する知識や技能を環境教育プログラムに変換し、自然科学の普及に取り組む。
NPO法人白神自然学校一ツ森校	白神山地における夏休みSDGs環境学習キャンプ	青森県	コロナ禍で、外で自由に遊べない子供達は、五感を働かせて自然の森の中で、共生してきたマタギの狩りの仕方や、暮らしを学ぶ事で、強い生き方や持続可能な環境への配慮を学んでいく。
公益財団法人金沢子ども科学財団	里山の自然を学ぼう～角間の里山自然体験	石川県	金沢市内の里山「角間の里」にて、小学3年生から小学6年生までの児童と参加を希望する保護者に対して、季節ごとの自然観察や、スノーシューを履いて雪道を歩くといった体験活動の機会を提供する。
NPO法人よこはま里山研究所	里山にかかわる暮らしを絵本などで楽しく表現し伝える	神奈川県	都市近郊に残されてきた身近な自然や里山について、そこにかかわることの楽しさや意義を、普段はそれらに関心を抱かない都市生活者を特に意識して、絵本・カルタを手段としてわかりやすく表現し、読み聞かせ・ワークショップ・動画配信などを通じて楽しく伝えていく試み。
NPO法人京おとくに・街おこしネットワーク	京都西山「陽光桜苑」整備計画	京都府	2018年度(平成30年)に放置竹林の伐採を行い20年に陽光桜苑は完成した。本年8月に長岡京市は連続4日間で500㎜と過去に記録がない未曽有の大雨が続き、陽光桜苑の沢路の石庭が流失した。14年間のボランティア活動で初めての出来事だが、活動の集大成として陽光桜苑の復旧作業と緑化活動に全力を注ぎたい。
つくし野ビオトーププロジェクト	地域で親子が生物多様性を体験的に学ぶ環境学習活動	東京都	「命」をキーワードに、年間プログラムで身の回りの環境体験や作物づくりを通して、自然との共生を「体験的環境学習」として学ぶ。生物多様性・生態系サービス・SCGsに配慮。参加者は3歳児から小学校～大学生までの子どもと親が中心。未就学児の参加者が急増し半数。地域住民主催で17年目の活動を継続・実施予定。
一般社団法人ソーシャルギルド	耕作放棄地から始める、環境問題を考える拠点づくり	大阪府	大阪府河内長野市で継続している「耕作放棄地の再生活動」を、環境課題を知る契機として提供できるよう、拠点を整備するとともに、地元で活動する団体、学生などとともに農業体験を組み合わせた受け入れプログラムを開発・実践し、学生などの新たな担い手づくりにつなげる。

助成・協働事業

ウミガメネットワーク三重	第二弾　ウミガメを本物で伝える	三重県	当会はウミガメを保護する団体である。主にウミガメの卵や子ガメを保護しているが、活動範囲の海岸にウミガメ（成体）の死体が頻繁に打ちあがるため死体の調査や研究も行っている。その死体をプラスチネーション標本にし、ウミガメ出前講座では受講者にわかりやすく説明したいと考える。
生駒山昆虫観察の会	「生駒山昆虫観察会2022 ～ 森 の生態を探る」	奈良県	親子ペアの参加者が、山の中で1泊2日し、生物学者と森の生態系、生き物を観察・採集する催し。参加者は、植物・昆虫の観察、採集を行い、いのちの循環、生き物の生態、体のしくみなどを知る。

ECOKA 委員会

公益財団法人金沢子ども科学財団

島根県維管束植物誌編集委員会

特定非営利活動法人樹木研究会こうべ

神奈川トンボ調査・保全ネットワーク

自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会

【復興活動支援】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
福興浜団	菜の花迷路一般開放と菜の花畑整備	福島県	東日本大震災による津波で全て流された南相馬市原町区萱浜地区に、菜の花畑を造成し、そこに迷路を作り、GW期間中に一般開放する。菜の花迷路には親子連れからお年寄りまで、市内はもちろん県内外から多くの人に訪れてもらい、楽しみ、笑顔になってもらうとともに、津波被害を受けた地区の現状を見て、知ってもらう。
吉里吉里花いっぱい運動実行委員会	吉里吉里花いっぱい運動	岩手県	東日本大震災で被害を受けた吉里吉里地区内の空地(震災前は住宅地で現在は居住地ではなくなった町有地)を花いっぱいにし、復興の象徴として再び住民や観光客が集まるにぎわいの場所を創る。
小高はなみちプロジェクトチーム	小高まちなか菜園事業・まちなかエコシステム計画	福島県	原発被災地である小高区において、これまで空き地を菜園として活用してきたが、さらなるステップとして、震災前まで取り組まれてきた環境保全活動を復活させ、より持続的で暮らしやすいまちづくりを進めたい。活動としては、空き地を活用した生ゴミコンポストと、用水路での蛍の飼育・放流の2つに取り組む。
NPO法人ＬＥＡＦ26	「椿の路」で学ぶSDGｓと復興植栽支援事業	宮城県	東松島市の震災復興と心の癒しとなる「椿の路」植栽事業を、自生種のヤブツバキを播種育成し植栽する。青少年団体や小中高学校を中心に、コロナ禍でも進められる体験型の学習と、SDGsの大切さを植栽を通して理解する事業として、地域住民も一緒になって進める。
NPO法人勿来まちづくりサポートセンター	花が育む高校生と地域との交流支援事業	福島県	普通高校生と支援学校生が協働し地域の商店会等と一緒にプランターの寄せ植えや花壇の植え込み作業を通してふれあい交流を深める事業。2020年度から地域の幼稚園児も参加し地域全体で窪田町の活性化に取り組み始めている。今年度は双葉町復興公営住宅や地域にある神社に集う若者への参加を呼びかける。
NPO法人Green Fields	いわて絆の花プロジェクト	岩手県	震災以来、被災地で花と緑の活動で地元に花のグループが立ち上がり花を植える活動をけいぞくしてきた。コロナ禍という新たな困難な時代に、その仲間と活動する各地の花壇等に「未来への希望の絆の花」を一緒に植え、美しい花を咲かせて人々の憩いやおもてなしの場とする。
NPO法人パワーアップ支援室	心を支え風化を防ぐ花の防潮堤醸成プロジェクト(続)	岩手県	岩手県大船渡市三陸町越喜来地区において、令和3年度に開設した花壇の増設と交流スペースの新設により、東日本大震災の後世への継承と記憶の風化の歯止め、人的交流機会の増加による心の復興の促進と交流の場の醸成の効果を高めることを目指す事業を行います。

吉里吉里花いっぱい運動実行委員会

特定非営利活動法人Green Fields

特定非営利活動法人パワーアップ支援室

委員会

助成事業審査委員会委員　令和4年4月現在(50音順)

委員長　林　孝洋　元近畿大学農学部農業生産科学科教授
副委員長　佐倉　統　東京大学大学院情報学環教授
委員　梶木典子　神戸女子大学家政学部家政学科教授
委員　武田重昭　大阪公立大学大学院 農学研究科准教授
委員　永田　萠　イラストレーター・絵本作家
委員　橋本佳延　兵庫県立人と自然の博物館主任研究員

令和5年度
助成対象の決定

令和5年度の助成事業を決定しました。

【公募】公募期間：令和4年8月1日(月)～9月9日(金)

【審査】審査期間：令和4年10月～令和5年2月

【決定】助成事業審査会の審査結果として、対象23件が理事長に答申され、決定しました。また、この内容は第116回理事会にて報告しました。

普及啓発・国際交流事業

1. 次世代育成事業

花の万博の理念の継承発展のため、講師派遣型セミナーを実施しました。

小学校講師派遣

コスモスセミナー小学校講師派遣は、協会に関係する多くの科学者や知識人を小学校に派遣し、自然との関わり、自然やいのちの大切さ、ひいては地球環境の大切さを学習し「自然と人間との共生」をいう花の万博の理念の継承・発展に資することを目的としています。
令和4年度は令和3年度に引き続き、対面授業とオンライン授業の選択制とし、対面12校、オンライン3校の計15校で授業を行いました。

アンケート(一部)
・大学院の教授から講義を聞けることは貴重なので、良い機会をいただきました。ありがとうございました。
・授業では習わない卵の中の仕組みなど、子どもが家に帰って親に言いたくなる内容でした。また、親とタマゴ(子ども)の体積比など、思いつかないことを話していただき、子どもたちもこの授業から次に活かすことができる授業だと思いました。
・学ぶことの楽しさ、様々な職業を知る事、人以外の生物、植物を知り地球環境を大切にする心を育むためにもコーディネートや計画等、とても大変ですが今後とも続けていただければと思います。
・年間複数回のパッケージ研修のようになればより児童の学習理解が深まるかと思います。
・学期に1回など年間通して来ていただければ子どもたちもそれぞれ調べたものを新聞にして見てもらうなどの活動になると思いました。

● 実施日	● 実施校および参加者			● 授業形態	● テーマ	● 講師
令和4年6月13日	池田市立呉服小学校	4年生	118名	対面	昆虫の生態・川の環境	谷 幸三(一般社団法人淡水生物研究所理事)
6月20日	高槻市立北清水小学校	3年生	57名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫(大阪公立大学教授)
6月21日	寝屋川市立国松緑丘小学校	6年生	47名	オンライン	生き物と食べ物について	佐藤 洋一郎(京都府立大学特別専任教授)
6月23日	大阪市立東中川小学校	3年生	46名	対面	昆虫の生態・川の環境	谷 幸三
7月4日	大阪市立瓜破東小学校	4年生	47名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎(元天王寺動物園園長)
7月11日	川口市立桜町小学校	6年生	65名	オンライン	生き物と食べ物について	佐藤 洋一郎
7月12日	門真市立沖小学校	3年生	47名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫
7月14日	貝塚市立津田小学校	5,6年生	68名	対面	砂漠の水がめスイカ	池谷 和信(国立民族学博物館教授)
8月30日	大阪市立東桃谷小学校	4年生	37名	対面	カタツムリの不思議な世界	河野 甲(カタツムリミュージアムラセン館代表)
8月31日	大阪市立清明丘南小学校	4年生	49名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎
9月2日	泉南市立一丘小学校	3年生	37名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫
9月9日	箕面市立箕面小学校	3年生	87名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎
9月15日	大阪市立西島小学校	6年生	54名	オンライン	ゴリラと歩いて学ぶ自然の不思議	山極 壽一(総合地球環境学研究所所長)
9月28日	熊取町立北小学校	4年生	94名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎
令和5年1月24日	高槻市立樫田小学校	3,4年生	16名	対面	カタツムリの不思議な世界	河野 甲

共生ツアー 人と山の 暮らしを探る in吉野

小学生の親子ペアを対象に、奈良県吉野町の林業をテーマに、自然と結びついた生業、文化、景観等の成り立ちについて、現地を訪問するエクスカーションを通じて、体験、学習するツアーを実施しました。

開催日：令和4年8月20日(土)
参加者：4組9名
場　所：奈良県吉野町
講　師：中井章太(7代目山守、中神木材代表)
　　石橋輝一(吉野中央木材株式会社 専務取締役)
行　程：山守ツアー（樹木皮剥ぎ体験、ロープワーク体験)、製材所視察、吉野杉の家視察

全国高校生「地域の自然」甲子園 (ネイチャー甲子園)

ネイチャー甲子園は、動画撮影や調査によって、地域の身近な自然や生きもの、それに関わる人々を紹介するもので、全国の高校生を参加対象とする事業です。応募部門は、「動画クリエイト部門」と「生きもの調査部門」の2種で、それぞれ、ショート動画の制作、フリーアプリへの生きもの写真の投稿を求めるコンテストです。
令和4年度は、共催者や関係機関との調整にあたり、令和5年度からのスタートに備えました。

2. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市緑化推進運動協力会に参画し、市民の都市緑化意識の高揚を目的に開催する「春季における都市緑化推進運動」(４月１日～６月30日)、「都市緑化月間」(10月１日～ 10月31日)中に開催された都市緑化キャンペーン、小中学校の壁新聞「育て！子どもたち」(産経広告社)を活用したコロナ禍における公園緑地の安心安全な利用促進の普及について、支援しました。また、10月28日(金)に東京都千代田区の日本教育会館で開催された「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会開催について、協力を行いました。

普及啓発・国際交流事業

3. 普及啓発事業

花の万博が開催された大阪において、理念の継承発展･普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施しました。

おおさか大阪都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画しました。
開催日：令和4年10月23日(日)
場　所：大泉緑地(大阪府堺市)
来場者：約6,000名
主　催：当協会、大阪府、阪神造園建設業協同組合
主な内容：・軽トラガーデンコンテスト作品展示
・自然工作や木工、ドライフラワーでリース作り
・多肉植物寄せ植え講習会
・生き物缶バッジ制作体験
・苔テラリウムワークショップ
・おおさか野菜のマルシェ、
・多肉植物の寄せ植え教室など

みどりのまちづくり賞（大阪ランドスケープ賞）

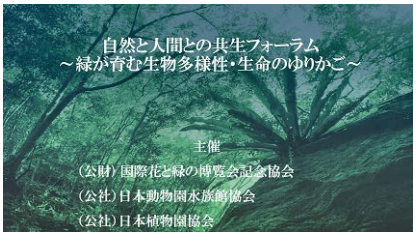
みどりによるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第11回みどりのまちづくり賞に参画し、花博記念協会会長賞等を授与しました。
主　　催：当協会、大阪府、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部
募集期間：令和4年5月18日から7月19日
入賞／応募数：8点／ 23点
表彰式・講評会：日　時：令和4年11月21日(月)
場　所：咲洲ホール(大阪府咲洲庁舎2階)
来場者：約80名

はならんまん2022

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画しました。
開催日：令和4年11月5日(土)～ 6日(日)
場　所：花博記念公園鶴見緑地(大阪市鶴見区)
来場者：約28,000名
主　催：当協会、大阪市
内　容：市民花壇の作成及び展示／鶴見緑地内花壇整備及び花きによる飾り付け
花と緑の相談実施／クラフト教室実施／花と緑のまちづくり普及啓発
花博記念協会PRブース(協会で取り組んでいる緑化普及事業のパネル展示及びリーフレット等での紹介)

第1回
自然と人間との
共生フォーラム
～緑が育む
生物多様性・
生命の
ゆりかご～

開催趣旨：地球規模での気候変動や自然環境の悪化のみならず、新型コロナウイルス感染症による人類への脅威など喫緊に解決すべき課題は増加している。「生物多様性」をテーマに、真の「自然と人間との共生」の実現、市民への普及啓発にむけて、使命を同じくする３団体が連携し、本事業を実施する。
主　　催：当協会、(公社)日本動物園水族館協会、(公社)日本植物園協会
後　　援：農林水産省、国土交通省、環境省
日　　時：令和５年２月１日(水)午後２時～４時10分
※オンライン配信により実施
次　　第：メッセージ　岩槻邦男　東京大学名誉教授、2016年コスモス国際賞受賞者
主催者挨拶　片山博昭　当協会専務理事
基調講演　　山極壽一　総合地球環境学研究所所長
「生物多様性が私たちにもたらしてくれる希望」
プレゼンテーション・パネルディスカッション
プレゼンテーション
「共生が育む植物の多様性」
川北 篤　　日本植物園協会理事(東京大学大学院理学系研究科附属植物園園長)
「ライチョウの生息域外保全を通して知る自然と人とのかかわり」
秋葉 由紀　JAZA生物多様性委員会ライチョウ計画管理者(富山市ファミリーパーク)
「身近な"みどり"を舞台とした人と自然をつなぐ取り組み」
橋本 佳延　兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部主任研究員
パネルディスカッション
上記３名並びにコーディネーター　湯本貴和　京都大学名誉教授
事前登録者：約360名



万博の桜
2025

2025年大阪・関西万博への機運を高め、関西の緑化環境の向上をめざす、募金による2025本の桜の植樹事業の実行委員会事務局として、引き続き寄附金の収納や事業の広報を行いました。広報は、ポスター掲示やチラシ配架、の他、大阪府庁前での植樹式や、熊本県(熊本市)、北海道(恵庭市)での全国都市緑化フェアにおけるPRブース出展を行いました。
また、本事業を令和5年度も継続して行えるよう関係機関との調整協議も行いました。

普及啓発・国際交流事業

4. その他の普及啓発

花の万博の理念の普及・啓発のため、各事業の広報等を実施しました。また、各種団体が実施する行催事等に協賛、後援等を行いました。

後援等一覧

● 催 事 名(開催時期)	● 開 催 場 所	● 主　　催	● 名義等
令和4年度大阪府立花の文化園「幼児・小中学生花の絵画展」(R5.1.5 ～ 2.5)	大阪府立花の文化園 イベントホール(大阪府河内長野市)	大阪府、住友林業緑化・ E-DESIGN共同企業体	後援 会長賞
第19回2022周防町通り「はなまつり」 (R4.5.1 ～ 5.31)	周防町通り(堺筋～御堂筋間)と大阪市立南小学校(大阪市中央区)	ヨーロッパ村周防町通り商店会	後援
水都おおさか森林(もり)の市2022 (R4.10.23)	近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公園周辺(大阪市北区)	水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会	後援
緑の講演会、探訪、植治の庭「清風荘庭園」) (R4.7.30)	ＷＥＢ開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援
第77回日本おもと名品展 (R4.11.26 ～ 11.27)	上野グリーンクラブ (東京都台東区)	日本おもと協会	後援 会長賞
令和4年度「都市緑化月間」 (R4.10.1 ～ 10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
令和4年度第42回伝統庭技研修会 (R4.11.10 ～ 11.11)	キャンパスプラザ京都 (京都市下京区)	一般財団法人日本造園修景協会	後援
緑のシンポジウム「月を愛でる庭」銀閣寺庭園の魅力を探る(R4.12.6)	ＷＥＢ開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援
日本フラワーデザイン大賞2022 (R4.11.26 ～ 11.27)	品川インターシティ 1Fホール (東京都港区)	公益社団法人日本フラワーデザイナー協会	会長賞
小品盆栽フェア第31回春雅展 (R5.3.24 ～ 3.26)	花博記念公園鶴見緑地内　ハナミズキホール(大阪市鶴見区)	公益社団法人全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
私のランドスケープ (R5.2.25)	京都経済センター 6-F（京都市下京区)及びＷＥＢ開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援

第77回日本おもと名品展

日本フラワーデザイン大賞2022（会場風景）

小品盆栽フェア第31回春雅展

ホームページ等の運営・管理

コスモス国際賞受賞者の講演会・ショートメッセージを動画サイトに掲載した他、ポストコロナのオンライン催事である「自然と人間との共生フォーラム」、環境授業動画「花博チャンネル」の新たなコンテンツを掲載しました。

コスモス国際賞関係：2022年受賞者フェリシア・キーシング博士「人生のターニングポイントと次世代へのメッセージ」「受賞記念講演会」

自然と人間との共生フォーラム：P19記載のとおり

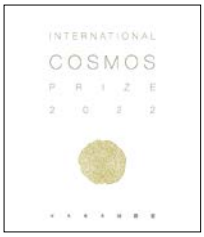
花博チャンネル：「特定外来生物クビアカツヤカミキリの生態と対策」　弘岡拓人　和歌山県かき・もも研究所主査研究員

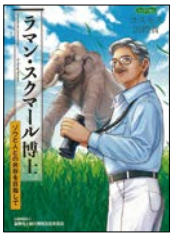
「植物のかたちとはたらき」　渋谷俊夫　大阪公立大学院農学研究所教授

「動物園から見える地球環境」　片山博昭　当協会専務理事

コスモス国際賞の広報

2022年(第29回)受賞者についての業績や授賞理由などをまとめたパンフレット(1,200部)に加え、関連行事の内容をまとめた報告書(600部)を作製し、関係者に配付しました。
また、コスモス国際賞受賞者の研究、業績をより幅広い世代に普及するため、2006年コスモス国際賞受賞者ラマン・スクマール博士を紹介する漫画(2,000部)を作製しました。

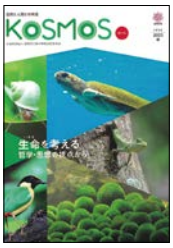




©山下　茜

情報誌の刊行

「自然と人間との共生」に関わる話題を発信する協会情報誌『KOSMOS』(変形A5版24頁2,000部)の10号、11号を刊行しました。両号は、8号、9号の新型コロナウイルス感染症特集に続き、「自然と人間との共生」の重要な要素である「生命」をテーマに「自然科学」「人文・社会科学」からの視点による、コスモス国際賞受賞者や協会関係学者等の対談、コラムを掲載しました。



情報の提供

今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体等	13件
企業・個人	9件

その他広報

各事業の周知等のため、印刷物を作成し配付やホームページに掲載等しました。
また、花ずきんちゃんの着ぐるみを作製しました。

普及啓発・国際交流事業

5. 国際交流事業

10年に1度オランダで開催される国際園芸博覧会2022年アルメーレ国際園芸博覧会への出展を行いました。

国際園芸博出展協力

令和4年4月14日から同年10月9日にオランダ・アルメーレで開催された「2022年アルメーレ国際園芸博覧会」での日本政府出展に協力しました。また、7月8日から7月20日に当協会の出展として、協会理念を表現するフラワーアレンジメントの展示と、来訪者に参加いただける日本の花きや日本庭園などにまつわるパズルゲーム（タブレットのアプリ）を通じて、日本の花き文化や庭園文化に親しんでいただきました。

調査研究・資料収集事業

「校庭・園庭における生態園づくり」事業調査

花博記念協会では平成15年から令和元年にわたり、「校庭・園庭における生態園づくり」事業により、近畿地方に位置する小学校、中学校、幼稚園、こども園、保育所におけるビオトープづくりへの支援を行ってきました。令和4年度は事業の取り組みのまとめと事業実施校を対象に現況調査・分析等を行い、効果を検証し、事業の全貌をとりまとめました。

理 事 会　令和４年度開催実績

	● 開催日	● 場　所	● 議　題
第113回理事会	令和4年 6月8日(水)	ステーションコンファレンス東京(東京都千代田区)	令和3年度事業報告及び収支決算について 定時評議員会の招集について 評議員会に提出する評議員候補者(案)について
第114回理事会	令和4年 7月20日(水)	ステーションコンファレンス東京(東京都千代田区)	2022年(第29回)コスモス国際賞受賞者の決定について
第115回理事会 (決議の省略)	令和4年 10月25日(火)	―――	特定資産の取崩しについて 決議の省略の方法による評議員会の招集について
第116回理事会	令和5年 3月17日(金)	ステーションコンファレンス東京(東京都千代田区)	特定資産の取崩しについて 令和5年度資産運用方針書について 令和5年度事業計画及び収支予算について 特定資産とすることについて 特定費用準備資金の保有について コスモス国際賞委員会委員長及び委員の選任について 助成事業審査委員会委員の選任について 役員賠償責任保険の加入及び法人の保険料負担について 臨時評議員会の招集について

評議員会　令和４年度開催実績

	● 開催日	● 場　所	● 議　題
第61回評議員会	令和4年 6月28日(火)	阪急グランドビル会議室(大阪市北区)	令和3年度事業報告及び収支決算書類の承認について 評議員の選任について
第62回評議員会 (決議の省略)	令和4年 11月7日(月)	―――	特定資産の取崩しについて
第63回評議員会 (決議の省略)	令和5年 3月31日(金)	―――	特定資産の取崩しについて

アドバイザリー会議　令和４年度からの新たな中期計画を策定するため、有識者によるアドバイザリー会議を開催した。開催の経緯は、次のとおり。

開催日：第3回　令和４年６月15日（水）ホテルエルシエント京都
　　第4回　令和４年10月７日（金）ホテルグランヴィア京都

アドバイザーメンバー：池 田 泰 子（嵯峨美術大学教授）　後 藤 祐 一（株式会社日商社代表取締役社長兼CEO）
　　田 中　 充（花博記念協会前専務理事）　湯 本 貴 和（京都大学名誉教授）

令和4年度決算

貸借対照表　令和5年3月31日現在

単位:円

科　目	当年度
Ⅰ　資産の部	
1.流動資産	
現金預金	139,947,214
未収収益	77,270,688
流動資産合計	217,217,902
2.固定資産	
(1)基本財産	
基本財産定期預金	860,000,000
基本財産投資有価証券	29,400,000
基本財産普通預金	600,000
基本財産合計	890,000,000
(2)特定資産	
記念基金	9,475,835,040
退職給付引当資産	15,563,600
国際園芸博覧会出展事業積立資産	15,000,000
法人運営安定化資産	20,000,000
コスモス国際賞30回記念事業積立資産	10,000,000
大阪･関西万博協力事業積立資産	10,000,000
特定資産合計	9,546,398,640
(3)その他固定資産	
什器備品	8
その他固定資産合計	8
固定資産合計	10,436,398,648
資産合計	10,653,616,550

科　目	当年度
Ⅱ　負債の部	
1.流動負債	
未払金	46,990,255
預り金	293,600
賞与引当金	2,309,612
流動負債合計	49,593,467
2.固定負債	
退職給付引当金	15,563,600
固定負債合計	15,563,600
負債合計	65,157,067
Ⅲ　正味財産の部	
1.指定正味財産	
寄付金	10,000,000,000
基本財産運用益	90,000,000
特定資産運用益	800,000,000
特定資産評価差額金等	△524,164,960
指定正味財産合計	10,365,835,040
（うち基本財産への充当額）	(890,000,000)
（うち特定資産への充当額）	(9,475,835,040)
2.一般正味財産	222,624,443
（うち基本財産への充当額）	(0)
（うち特定資産への充当額）	(55,000,000)
正味財産合計	10,588,459,483
負債及び正味財産合計	10,653,616,550

正味財産増減計算書　令和4年4月1日 から 令和5年3月31日 まで

単位:円

科　目	当年度
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1)経常収益	
基本財産運用益	4,569,108
基本財産受取利息	4,224,408
基本財産投資有価証券償還益	344,700
特定資産運用益	249,292,308
記念基金受取利息	248,792,308
記念基金投資有価証券償還益	500,000
受取寄付金	4,500,000
受取寄付金	4,500,000
経常収益計	258,361,416
(2)経常費用	
事業費	211,340,873
役員報酬	8,710,730
給与手当	34,172,942
法定福利費	5,955,862
退職給付費用	2,479,517
賃金	3,184,144
職員厚生費	155,896
会議費	2,483,218
旅費交通費	6,970,187
通信運搬費	2,818,050
広告費	736,988
消耗什器備品費	882,617
消耗品費	1,888,777
印刷製本費	1,695,160
光熱水料費	3,685,004
役務費	106,645
委託費	48,872,123
賃借料	3,811,540
使用料	2,417,179
保険料	213,472
諸謝金	8,605,006
租税公課	25,480
支払負担金･会費	17,512,744
支払助成金	12,980,404
支払手数料	306,694
顕彰賞金	40,000,000
雑費	670,494
管理費	54,127,110
役員報酬	3,733,170
給与手当	32,035,840
法定福利費	6,241,228
退職給付費用	2,365,183
職員厚生費	148,708
会議費	240,224
旅費交通費	1,272,250
通信運搬費	321,659
消耗什器備品費	358,357
消耗品費	383,506
光熱水料費	1,579,288
役務費	45,705
委託費	2,728,184
賃借料	1,484,503
使用料	347,201
保険料	91,488
諸謝金	170,700
租税公課	1,920
支払負担金･会費	444,781
支払手数料	112,583
雑費	20,632
経常費用計	265,467,983
当期経常増減額	△7,106,567
2. 経常外増減の部	
(1)経常外収益	
経常外収益計	0
(2)経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△7,106,567
一般正味財産期首残高	229,731,010
一般正味財産期末残高	222,624,443
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
受取寄付金	4,500,000
受取寄付金	4,500,000
基本財産運用益	4,569,108
基本財産受取利息	4,224,408
基本財産投資有価証券償還益	344,700
特定資産運用益	249,786,682
記念基金受取利息	249,286,682
記念基金投資有価証券償還益	500,000
特定資産評価損益等	△396,943,892
記念基金投資有価証券評価損益等	△396,943,892
一般正味財産への振替	△258,855,790
一般正味財産への振替	△258,855,790
当期指定正味財産増減額	△396,943,892
指定正味財産期首残高	10,762,778,932
指定正味財産期末残高	10,365,835,040
Ⅲ　正味財産期末残高	10,588,459,483

財団の概要（令和5年3月31日現在）

名　　称	公益財団法人　国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年（平成3年）11月1日
公益法人移行日	2013年（平成25年）4月1日
所在地	〒538−0036　大阪市鶴見区緑地公園2番136号

評議員　令和5年3月31日現在（50音順）

評議員	小栗邦夫	（公財）日本特産農作物種苗協会理事長
評議員	金田章裕	（大）京都大学名誉教授
評議員	小池英夫	（特）日本放送協会専務理事・大阪放送局長
評議員	佐藤友美子	（学）追手門学院大学地域創造学部教授
評議員	高橋　徹	大阪市副市長
評議員	竹歳　誠	元国土交通事務次官
評議員	田中清剛	大阪府副知事
評議員	鳥井信吾	大阪商工会議所会頭
評議員	土井元章	（大）京都大学大学院農学研究科教授
評議員	羽田光一	（公社）日本家庭園芸普及協会顧問
評議員	正木啓子	（公社）日本都市計画学会関西支部顧問
評議員	増田　昇	（大）大阪府立大学名誉教授
評議員	松下正幸	（公財）松下幸之助記念志財団理事長

役　員　令和5年3月31日現在（50音順）

会長	御手洗冨士夫	（一社）日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角　和夫	阪急阪神ホールディングス（株）代表取締役会長グループCEO
専務理事	片山博昭	常勤
理事	柴田道夫	（大）東京大学名誉教授
理事	武内和彦	（公財）地球環境戦略研究機関理事長
理事	本間和枝	（公財）宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕	（大）京都大学名誉教授
理事	和田新也	（一社）日本造園建設業協会会長
監事	北山諒一	公認会計士
監事	﨑元利樹	（公財）関西・大阪21世紀協会理事長

顧　問　令和5年3月31日現在（50音順）

顧問	今井　敬	（一社）日本経済団体連合会名誉会長
顧問	中川和雄	大阪日韓親善協会会長
顧問	牧野　徹	アイング（株）最高顧問
顧問	三井康壽	政策研究大学院大学特別教授

参　与　令和5年3月31日現在（50音順）

参与	青木保之	（学）東洋女子学園理事
参与	佐々木正峰	（独）国立科学博物館顧問
参与	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
参与	中村桂子	JT生命誌研究館名誉館長
参与	畑中孝晴	（一社）プリザーブドフラワー全国協議会代表理事
参与	波多野敬雄	（学）学習院名誉院長
参与	ルイ・サトウ	在仏建築家

協会事務局（TEL：06-6915-4500、FAX：06-6915-4524）

〈担当業務〉

◆総務部　（TEL:06-6915-4500）
〈管理運営、評議員会・理事会関係、予算・決算、資産運用、広報等〉

◆企画事業部　（TEL:06-6915-4516、4513）
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、フォーラム、セミナー、調査研究・資料収集等〉

令和5年度(2023年度)事業計画概要　(令和5年3月17日現在)

顕彰事業

1.2023年(第30回)「コスモス国際賞

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間との共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2023年(第30回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

令和5年度は、2023年の受賞者選考及び決定に加え、2024年の選考準備を行います。2023年の受賞者は7月中旬に決定し、11月に授賞式を開催します。

また、本年が賞創設30回目の授賞と節目の年にあたることから、これを記念した行催事を実施します。

2.BIEコスモス賞

博覧会国際事務局(BIE)が実施し、当協会が協力する「BIEコスモス賞」については、次の開催となる「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」に向け、BIEと協議を進めます。

3.全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に、「花とみどりの国づくり及びまちづくり」を目的として創設された「花のまちづくりコンクール」について、推進協議会に参画し、実施します。

助成・協働事業

1.花博自然環境助成事業

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究」、「活動・行催事」の助成を実施します。なお、令和4年度まで設けていた「復興活動支援」については、令和5年度からはこれに統合し、実施します。

普及啓発事業及び国際交流事業

1.次世代育成事業

協会事業に関係する学者、知識人等を講師として小学校へ派遣する「小学校講師派遣事業」については、引き続き対面およびオンラインにより実施します。

なお、「小学校講師派遣事業」等の動画を収録し、ソーシャルメディアにて活用する「花博チャンネル」を継続実施する他、コスモス国際賞受賞者紹介読本の刊行等も行います。また、「全国高校生『地域の自然』甲子園」(通称「ネイチャー甲子園」)を令和5年度から新たに実施します。

一方、「自然観察教室」の共生ツアー(エクスカーション)は調査研究・資料収集事業へ移行します。

2.都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」、及び住民参画のもと創意・工夫を生かしたまちづくり推進を目的に実施される「まちづくり月間」に協力するとともに、各団体が実施する都市公園制度150周年関連事業に参画します。

3.普及啓発事業

花の万博開催の地元である大阪で開催される「大阪都市緑化フェア」や「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力すると共に、みどりのまちづくりに貢献する美しい景観を表彰する「みどりのまちづくり賞」に参画します。

また、当協会設立30周年記念事業として「2025年日本国際博覧会」の機運喚起と街の緑化をめざした「万博の桜2025」について、引き続き実行委員会事務局として、PRや寄附の受け入れ等を行います。

情報発信については、「コスモス国際賞受賞記念講演会」をハイブリッド型(リアル・オンライン)で開催し、情報発信に努める他、情報誌『KOSMOS』の刊行を引き続き行うと共に協会ホームページの充実を図ります。

さらに、花の万博資料や当協会の蓄積情報のアーカイブとしてのデータベース化を引き続き進めます。

また、「自然と人間との共生フォーラム」を引き続き実施します。

4.国際交流事業

令和5年度に開催される「ドーハ国際園芸博覧会」への政府出展に協力します。

また、日本に避難しているウクライナ留学生のこころの癒しのために花を贈る「フラワープレゼント」を実施します。

調査研究・資料収集事業

生物多様性等に関する調査については、花の万博の理念継承に資する生物多様性の保全や、動植物の生息地や保存等に関する情報収集等を行います。

また、過年度助成団体等との連携や、協会事業に沿った企業のSDGsやメセナの取り組みを調査し、協働の方策を検討します。

さらに、次世代育成事業から移行した「共生ツアー(エクスカーション)」は、関西広域連合と連携し実施します。

公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会
〒538-0036　大阪市鶴見区緑地公園2番136号
TEL.06-6915-4500　FAX.06-6915-4524
https://www.expo-cosmos.or.jp/

表紙の写真　「アメリカンチェリー」
2022年（第29回）コスモス国際賞受賞者キーシング博士の故郷カリフォルニアに咲く花です。
写真は、授賞式用のコサージュ、ブートニアとして制作したものです。

●シルバー
S07-0092
VEGETABLE OIL INK

発行日　2023年6月